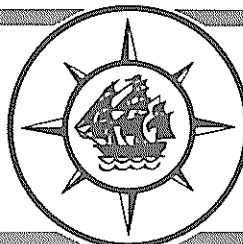


## Operation Raleigh News



Operation Raleigh

DENSO

No.8

昭和60年(1985)5月5日(日)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

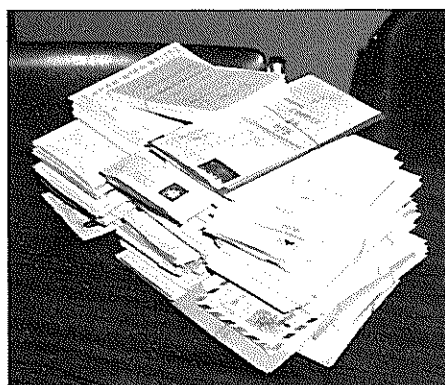
●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で作られたものです。

## 1985年次参加青年募集

## 問合せ続々1カ月で1,525人

3月20日(水)から始まった1985年次オペレーション・ローリー参加青年募集活動は、新聞広告、雑誌広告、テレビCMなどで展開されていますが、約1ヵ月後の4月19日(金)までの集計によると募集要項請求数は1,525人に達しました。その内訳は男性が795人、女性が730人とやや男性が多いものの、予想以上に女性の積極性を感じられます。

また、問合せ方法については、ハガキが圧倒的に多く、電話での問合せの約4倍にのぼっています。



●1,200通を上回るハガキの山(ORJC事務局)

いっぱいという印象でしたが、平野さんのお母さんは少し心配そうな様子で見送られました。

成田空港には参加メンバー、ORJC事務局員らが見送りにかけつけました。

4人は、ロサンゼルス→マイアミ→パナマというコースで空路無事到着しました。

## 第5陣ホンジュラス組

## ベリゼに到着

第5陣として、ホンジュラスへ向かう勝間靖君、今田恒夫君、田中正信君、谷川秀夫君の4人は、4月1日(月)午後1時30分成田空港発の大韓航空機で出発しました。ロサンゼルス→ヒューストン→マイアミ→ベリゼとすべて飛行機の旅。9時間の時差があるものの、4人とも元気なようです。

成田空港ではORJC事務局員や参加メンバーなど14人が見送りましたが、出発前の4人の抱負は次のとおりです。

勝間君 楽しんできたい。ダイビングの免許を取ったので、それを生かしたいですね。不安はありません。

今田君 不安より期待の方が強いです。まだ目的が明確でないけれども。

田中君 自分の体力を過信せずに活動しようと思います。とくに酒を飲み過ぎないようにします。

谷川君 色々な国からの人々と会えるのが楽しみです。無理をしないでセーブしながらやっていきたいです。

4月3日(水)にベリゼに到着した今田君からの便りによると、「4月4日から4月7日までの4日間は、ジャングル・トレーニングに参加。全員かなり厳しい訓練で疲労気味だが、4月8日からは、天国にいちばん近い島と呼ばれているキーコーコー島に行けるので楽しみだ」ということです。



## パナマ組の4人

## 元気に成田出発

4月11日(水)午後1時30分、第6陣としてパナマでのフェイズに参加する川村豊君、岸田直子さん、平野裕

●にこやかな第6陣パナマ組  
(成田空港出発ロビー入口で)

加里さん、筒井正幸君の4人は成田空港から大韓航空機で元気に出発しました。筒井君、川村君の男性組は不安なし、元気いっぱいという感じ。平野さん、岸田さんの女性組も期待

# 横浜 日本丸デッキで

## 春雷にめげず無事収録



森田健作さん



福留アナウンサー

## OR参加青年16人が出演

4月20日OR体験青年9名と待機青年7名が出演する日本テレビ特別番組「青春アドベンチャー！地球こそわが舞台——オペレーション・ローリーの若者たち」（5月4日(土)朝8時30分～9時25分・一部地域は異なる＝日本テレビ系列）の収録が横浜港高島埠頭に永久保存が決まった帆船日本丸のエキジビジョンデッキで行なわれました。この番組は、国際青年年のテーマ「参加・開発・平和」にマッチした企画として、日本テレビが「オペレーション・ローリー」を取り上げるもので、参加青年を中心とするドキュメンタリー・トーク番組として構成されたものです。5月4日の放送によって、1985年次募集活動にもますます拍車がかかるものと期待されます。

番組に出演したのは、体験組の松井直弘君、桃井和馬君、戸上忠顕君、橋本かおりさん、伊藤由樹子さん、堀内一秀君、小俣博泰君、大見則親君、戸崎登君と待機組の菊地孝範君、新保陽子さん、原田亜紀子さん、細田香納美さん、大塚洋君、片岡理



●雨を避けて収録は第2デッキで

智さん、高柳俊成君の合計16名。体験組は日焼けした顔に、すっかりなじんだORオリジナルヨットパーカーを着て前列に、待機組は後列に座り、日本テレビ福留アナ（通称トメさん）の司会、ゲスト森田健作さん、女性アシスタントのメンバーで収録されました。

収録風景をドキュメント風に追ってみましょう。

### 収録ドキュメント

【午前7時】早朝から雲ゆきがあやしい。午前7時技術スタッフ15人が到着。日本丸への機材積み込み、セッティングを開始。このころから雲の動きが激しくなり、セッティング完了直後からポツポツと雨が落ちてきた。OR参加青年たちも7時に到着していたが、バスの中で待機。青空のもと、すがすがしい朝日を期待していた関係者一同はガックリ。

【午前8時】やむを得ず、第1エキジビジョンデッキをあきらめ、屋根のある第2デッキに移動。福留アナ、森田さん相次いで到着。両者とも車の中でそのまま待機。第2デッキへの移動が終わるやいなや、激しい雨と雷。横なぐりの風雨が降り込んでくる始末。シートで防水し、ぬれた機材を乾かす。

【午前9時】予定より30分おくれで福留アナ、森田さん、スタッフの打ち合わせがキャビンの中で始まる。さすがプロたち、みんな真剣な表情でキビキビと打ち合わせが進む。いっぽう、OR参加青年たち、とくに

体験組は、おそろいのヨットパーカーに身を包み、これぐらいの雨か……という顔つきでカメラリサルに臨んだ。しかし、カメラではやや緊張気味の堅さがうかる。

【午前10時】福留アナ登場。参年たちの緊張をほぐそうと絶妙りかけ。「何をいってもいい。しゃ



●福留アナと森田健作さんをはさ

アが中断中に、小俣君が「僕の答点の状態はまだひとつの線にない」と弁明（要するに話がまわっていない）に全員大爆笑。さんと待機組の原田さんとの会はずむなど、だんだん打ちとけた。森田さんのスケジュール上田発言を先行させる。「冒険と知的を見つけ、それに向かってること」「チャレンジ対象は大きうがいい」といった森田節が仕「ORにも年齢制限があるのはカラン」といった調子が続く。【午前11時】体験組の小俣君もに歯切れがよくなってきた。橋ん、戸崎君、大見君らの発言も

日本テレビ特別番組「青春アドベンチャー！地球こそわが舞台——ORの若者たち」収録風景ルポ



●本番前の真剣な打合せ風景

っていけないことは何もない」と明言。すかさず参加青年の中から「放送禁止用語は？」と声がかかり、すっかりリラックスモードになってきた。森田さんも着席。となりの橋本さんの頬がいくぶん紅潮。福留アナの「いくぞォ～」の声で、10時10分いよいよ本番収録開始。桃井君から体験談を話し始める。船酔いのつらさが話の中心だが相当堅くなっている。港内の船の交信音が入り、収録



●雨上りの船首に参加青年たちが集まってラストシーンの収録

## ハプニング1

### 雷とどしゃ降り

ピカッ!ドドッ!まず最初のハプニングは、突然の春雷。そして叩きつけるようなどしゃ降りの雨、雨。収録スケジュールを大幅に狂わせた自然現象。しかし、冒険をテーマとしたOR特別番組にはむしろふさわしかったかも知れません。



## ハプニング2

### 工事音にカリカ

2つ目のハプニングは、日本丸周辺の「みなと・みらい21計画」の工事の影響。ジャージャー、ガリガリと、異常な作業機械音に、音声技術スタッフはハラハラ、カリカリ。

## ハプニング3

### 港の無線ちゃん入

同じく音声技術スタッフを悩ませ

たのは、港内を航行する船と船の無線交信が、録音されてしまうこと。

「きょうは〇〇に行こかや～」といった船員さんたちの、のんびりした会話が入ってきて、ア然。ノリ始めたところでNGにガックリ。福留アナも、さすがに「まだあ？」を連発。



収録の舞台となった日本丸は、かつて七つの海を越えた代表的な日本の帆船で、引退後は横浜港高島埠頭で公開中です。この収録は、4月28日の公開に先立ち、横浜市の協力で実現したものです。

埠頭周辺は、横浜市の「みなと・みらい21計画」の中心となるところで、日本丸は博物館として永久保存されることになっています。

●日本丸プロフィール：2,280t、全長97.05m、幅12.95m、1930年英国の設計で、川崎造船所が建造。世界に現存する4檣バーク型帆船のひとつで、練習船として、多くの船乗りたちを育てた船です。

かん  
一  
前  
え  
青  
語  
ア



参加青年たちの話がはずむ

力のあるものだった。11時50分ごろ雨も上がり、陽が射し始める。参加青年たちの話しぶりもいよいよ佳境に入る。

【正午】最後に待機組がひとりずつ抱負を述べるとともに、まとめとして、体験組が「日本人であることを痛感した」「ちょっと国際人になったように思う」などと発言した。福留アナの軽妙な話術と若い参加青年たちのハートをつかんだリードで12時35分、約2時間の収録が終了した。お疲れさま。このあと参加青年たちは、すっかり晴れ上がったデッキの上で記念撮影などをしていた。

第  
さ  
得

# 日本代表派遣青年のページ

## 第2のキャンプ地へ コスタリカからの便り

コスタリカで活動中の前橋宏美さんからの日記風の連絡(抜粋)です。

〔3月14日〕 雨林を去って、首都サン・ホセに3日間滞在。

〔3月18日〕 第2のキャンプ地、ペン・レアルに到着。

〔3月27日〕 サン・ホセから取材陣がやってきて、第1回目の本をつくるための撮影をしていた。

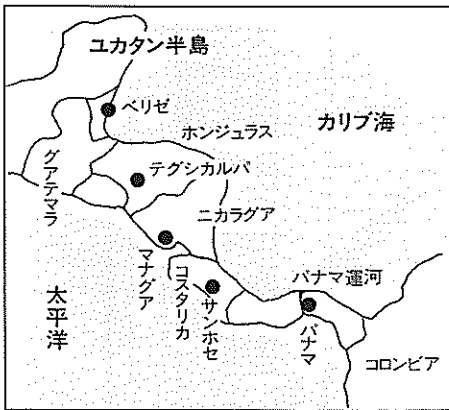
〔3月28日〕 ひどい腹痛と下痢。発熱もあり、寝込んでしまう。

〔3月29日〕 イースターの休みがあることがわかった。

〔3月30日〕 フットボールを楽しんだ。エキサイトしてしまった。

〔3月31日〕 馬に乗って釣りに行った。馬が突然暴走し、おそろしい目に会ったけれど、楽しい一日。

〔4月1日〕 エイプリルフールを楽しんだ。クレ村で考古学調査の手伝い。スペイン語しかわからない人々たちとカタコトでおしゃべり。



〔4月2日〕 明日からイースターの休暇です。

〔4月3日〕 午後からオサへ出発。

〔4月4日〕 オサに到着。小さなボートに11人も乗って5時間。しかも常に浸水した水を汲みながらの旅だった。

〔4月6日〕 ナショナルパークへ。道の脇に自生しているココナッツやマンゴーを採って食べながら7時間の往復。帰りに大きな浜辺いっぱい夕焼けを見た。

〔4月7日〕 フットボールをやったが、足がつって10分で退場。4月の中旬SWRに乗船して、パーティに参加するそう。

〔4月8日〕 24才の誕生日。朝3時

半にオサを発ち、すばらしい朝日を見た。キャンプではみんながケーキを焼いて、誕生日を祝ってくれた。一生で一番すてきな誕生日だった。

〔4月9日〕 山内君たちのグループがこのキャンプに来ることになっているのに、結局来ない。別のキャンプに行ったらしい。

〔4月10日〕 ヒッチハイクでサン・ホセに戻る。

## ベリゼで密林訓練 ホンジュラスからの便り

ベリゼに到着した今田恒夫君からの便りです。

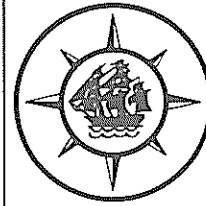
4月3日にベリゼに着き、4日間ジャングルトレーニング。高温と蚊、ハエ、ダニにやられて疲労気味だ。このほかに毒ヘビやサソリもいるという話だ。ハンモックなしで来たので困っている。4人とも同じグループ、ブラックリバー班だが、英語がよくわからないため、かなり失敗をしている。ほとんどカンが頼り。

食事は、ほとんど流動食。たまにソーセージ、ビスケットがつく。紅茶ばかり一日に4ℓぐらい飲んでい。全体の雰囲気は大変明るく、冗談も多いが、わからないまま笑っている。香港からの2人とはうまく話せて楽しい。

## マイアミからの第1信 パナマ組の4人

パナマへ向かった平野、川村、岸田、筒井君の4人はロサンゼルス、マイアミ経由でパナマ入りしましたが、途中マイアミから岸田さんが便りを送ってきました。

飛行機の乗り継ぎばかりでパナマへ行くことは大変です。ロスまでの長旅、座席の近くに3才以下の子供が8人もいて、泣くやら叫ぶやら…。寝ることができず、疲れはてています。こんな強行軍ではパナマで自己紹介するとき笑顔でできそうにもありません。ロスでダウンタウンに行き、変なフルーツを食べさせられ、メキシコタウンで、やたらまずい夕食をとり、夜は町を歩くのがこわくて、ホテルニューオータニでコーヒーを飲みました。しんどい旅です。



Operation  
Raleigh  
DENSO

オペレーション・ローリー & 日本電装

## 「ズームイン朝」に出演

4月10日(休)11日(休)朝7時からORメンバーが日本テレビ(東京千代田区二番町)のサテライトスタジオ前に集まり、「ズームイン朝」の徳光和夫アナウンサー(日本テレビ)の取材を受けました。この模様は全国に生放送されました。



●徳光アナと記念撮影のORメンバー

## 新聞・雑誌でOR紹介

1985年次の参加青年募集中を知らせる新聞記事、雑誌記事が朝日新聞にゆうす・らうんじ欄とNumberのトピックス欄に掲載されました。



●新聞・雑誌で紹介されたOR